

# ネットワークと公民館

ネットワークから公民館の事業計画を考える

広島市グリーンスポーツセンター 下前裕美

## 1 はじめに

なぜネットワーク(つながり)をテーマにしたか？

- ① 上級研修でのテーマ別研究
- ② 職員の役割
- ③ 中教審答申など

「つどい」「学び」「つながる」場としての公民館

+

「連携」による教育力の向上・「新しい公共」の創出  
・地域の「絆」づくり

||

重要なのは「ネットワーク(つながり)」

## 2 ネットワーク(つながり)とは

- ネットワーク  
人と人とのつながり、または集団間や社会組織間のつながり
- ネットワークの種類
  - パーソナルネットワーク  
限定的に人と人とのつながり、あるいは親しい人とのつながり
  - 社会的ネットワーク  
集団間、組織間のつながりも含む

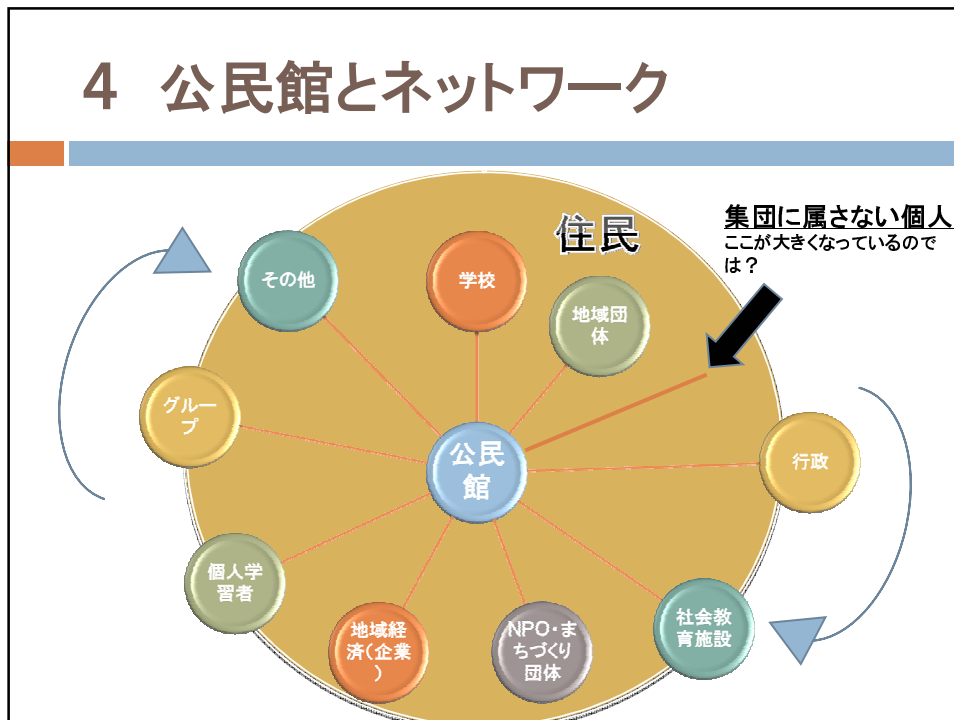
## 3 ネットワークの重要性

ネットワークの重要性を説明する二つの言葉

- **住民力** ①親密 ②橋渡し ③支援期待度 ④地域参加度 ⑤信頼度
- **社会関係資本** ①形 ②信頼 ③規範

親密なネットワークがある地域  
地域が大きな資本(能力)を持つ

## 4 公民館とネットワーク



## 5 ネットワークを活かした公民館事業

- 地域団体との連携
- 他公民館、施設との連携
- 大学との連携
- 学校との連携
- グループとの連携
- 行政との連携
- 企業との連携
- NPO・NGO等との連携
- etc

### 以前と違うと感じる点

- ① 土台となる団体の縮小とネットワークの希薄化
- ② 相手先の多様化
- ③ 結果が求められる

## 6 「ネットワークの見える化」について

### 方 法

- ①まずは図に
- ②つぎに、各ネットワークの状態を
- ③最後に、地域情報を

### 目 的

地域の状態を把握し、事業計画のヒントにする

### 良いところ

- 図になると分かりやすい
- 状態を見えやすくすることで、事業計画のヒントを得やすい
- 職員個人から公民館全体の取り組みへ

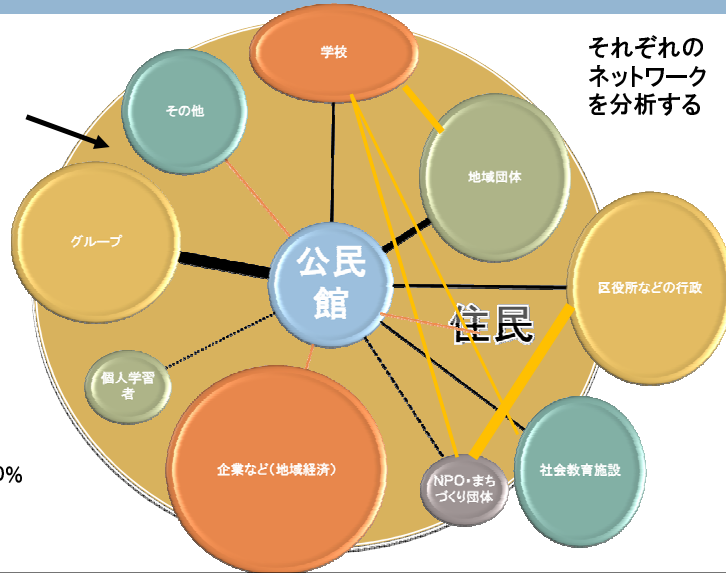
## 7 ネットワークの見える化 (公民館が取り組むつながりづくり)

それぞれの割合、公民館とのつながりとその強度をあらわしていきます。

- ① 公民館利用者
- ② 団体
- ③ 住民(個人)

## 「ネットワークの見える化」の例

【住民構成】  
 人口:〇〇人  
 6歳以下:〇人  
 7~12歳:〇人  
 13~15歳:〇人  
 16~18歳:〇人  
 19~25歳:〇人  
 25~35歳:〇人  
 36~45歳:〇人  
 46~55歳:〇人  
 55~65歳:〇人  
 65~75歳:〇人  
 75歳以上:〇人  
 100歳以上:〇人  
 世帯数:××世帯  
 高齢化率:△%  
 少子化率:△%  
 外国人数:□人  
 町内組織率:50%  
 子ども会組織率:20%  
 など



## ネットワークの見える化と事業計画 (施策と事業へ)

**例**

### ●現状

- 企業等の地域経済団体の割合が大きいが、公民館との接点  
があまりなく、地域とも関わっていない
- 地域団体との関係は強いが、団体自体の組織率が低い

### ●重点目標

- 地域団体と住民(個人)との交流を促し、地域内の相互コミュニ  
ケーションの活性化をはかる

### ●施策

- 地域団体と各種行政施設、地域経済団体等との幅広い連携に  
より、住民が多く参加できる事業を地域行事において実施する  
ことで、ふるさと意識の醸成と住民の交流を促進する。  
☞ 具体的な事業の企画へ(地域行事を取り上げた事業など)

## ネットワークの見える化と事業計画 (感想)

図をもとに様々な切り口での事業計画を考える

例) ①学校や子育て ②地域経済 ③スポーツ  
④環境美化 ⑤SNSの活用 ⑥趣味講座

- ・高い効果を得るために、数年計画で考える
- ・地域性を考慮しつつ、個人とのつながりを作る
- ・事業を通じて、社会の一員だという意識をもつような仕掛けを入れる
- ・公民館の枠にとらわれず、発想を豊かにする

## ネットワークの見える化(反省)

★条件づくり

★共有すること

やってみると、とても難しかったです……。

## 8 住民力を上げるために

ネットワークをつくることだけが目的ではなく、その先に  
住民力(地域の力)を育てることが大切



公民館の取り組みを通じて、つながりをつくとともに、  
個人に対して社会化(社会とどうかかわるか)と  
公共の精神を養うことを考え、働きかける



ネットワークによる住民力の向上

## 9 ネットワークと公民館の役割

- 公民館  
→地域社会のネットワーク(つながり)の中心に
- 職員のコーディネート能力  
→ネットワークを活かすだけでなく、作り、維持することも考える

### 公民館の役割

人とつながって生きるのが社会

住民に地域社会の存在を意識させ、住民力にしていく場  
が公民館

個人の社会化も大切な役割

## 10 まとめ

### 本日の内容



ネットワーク(つながり)がしっかりした地域は潜在的に大きな力を持っていること



求められるのは、「公民館＝ネットワークの中心」、「公民館職員＝ネットワークのコーディネーター」であること



ネットワークの見える化をして、事業計画に活かすこと



住民を人財にし、住民力を伸ばすには、「ネットワーク＋ $\alpha$ 」が必要なこと

## 11 公民館の可能性

- 1 手段としての社会教育は無限大
- 2 住民(個人)のメリット  
「その地域に住むことで得られる幸福度を上げる」
- 3 地域のメリット  
「住民力があがることで大きな資本を持つ」



## 参考文献

- 岩永雅也著『現代の生涯学習』放送大学教育振興会 2012年
- 森岡清志編著『パーソナルネットワーク論』放送大学教育振興会 2012年
- 森岡清志編著『都市社会の社会学』放送大学教育振興会 2012年
- 浅井経子編著『生涯学習概論 生涯学習社会への道』理想社 2010年
- 鈴木真理編著『社会教育計画の基礎』学文社 2012年
- 森岡清志編『都市社会学セレクション2 都市空間と都市コミュニティ』日本評論社 2012年
- 亀岡誠著『現代日本人の絆』日本経済新聞出版社 2011年
- ニコラス・A・クリスタキスほか著『つながり 社会的ネットワークの驚くべき力』講談社 2010年
- 山脇直司著『社会とどうかかわるか 公共哲学からのヒント』岩波書店 2008年
- 山脇直司著『公共哲学とは何か』筑摩書房 2004年